

# 私の履歴書

## EPISODE5

～感染症対策を支える日本とザンビアの獣医学連携～



Dr. Munsimbwe Linous, D.V.M., M.Sc., Ph.D.

(ムンシンプウェ・リノス博士)

Principal Veterinary Officer

Veterinary Public Health Unit, Ministry of Fisheries and Livestock

## 1964年東京オリンピック閉会式当日に独立した国を知っていますか？

アフリカ南部にあるザンビアは、1964年10月10日に開幕した東京オリンピックの大会期間中は、北ローデシアとして参加しました。しかし、閉幕日の10月24日にイギリスから独立したことで、国名が変更されザンビアとなりました。そのため、選手は閉会式には開会式とは異なる国旗を掲げて入場行進を行ったという逸話が残っています。世界平和度指数ランキング(2024年)では163か国中57位であり、アフリカで最も平和な国のひとつとして評価されています。ザンビアと南



隣のジンバブエとの国境に流れるザンベジ川には世界三大瀑布の一つと称されるヴィクトリアの滝があります。また、アフリカを代表する野性動物も多く生息しており、大自然が残されています。一方で、北部のカッパーベルトには銅鉱山が多数存在し、独立以前から銅の生産を主産業とする大鉱産国です。そのような国でJICAは、1980年代からザンビア大学獣医学部での教育支援を40年にわたり実施しております。(写真左:ザンビア大学獣医学部)

## 日本での研修に参加して

リノス博士がザンビア大学獣医学部の学生だった頃、JICAプロジェクトが同大学で実施中であったことから、当時の日本人のプロジェクト専門家と親しくしていました。ザンビア大学獣医学部で獣医師としての資格を取得した後、国家公務員になり、中央獣医研究所で働いていました。そんな頃、友人から日本で行われる課題別研修「国際獣疫対策上級専門育成コース」への参加を奨められ、応募した結果、研修生として選ばれました。場所は帯広畜産大学の原虫病研究所で、期間は2012年10月から2013年8月の10ヶ月間でした。研修では遺伝子診断や血清診断など、ほぼ全ての診断方法に加え、研究に活用できる技術を学びました。また長崎大熱帯病研究所(熱研)にも出向く機会があり、感染蚊からのマラリア原虫の分離などを教わりました。(写真右:研修コースの研修員たちと大学で)



## そして帰国後に博士号を取得、そのきっかけは？



帰国後は研究所へ戻り、帯広で習得した研究の技術を業務に活用していました。そんな中、思いがけず帯広畜産大学の先生からの奨めを受け、ハワイ大学で博士号を取得しました。博士号のテーマは「気候変動がダニ媒介性感染症に与える影響」で、特にザンビアで問題となっている東海岸熱<sup>1</sup>の病原体であるタイレリア原虫への影響を調べました。その後、配属先が変わり獣医公衆衛生分野に係る本省の部署へ異動となりました。そこでは帯広畜産大学の課題別研修で学んだ人獣共通感染症に関する技術や知識が非常に役立っています。また、現在はザンビア大学獣医学部で「予防獣医療」と「家畜感染症」を教えており、課題別研修で学んだ知識はそれらの講義でも役立てられています。

<sup>1</sup> ダニが媒介するタイレリア原虫の感染を原因とする牛や水牛の疾病。アフリカにおいて最も重要な家畜の感染症。

## フィールドでの活動

また、リノス博士は畜産分野に関係する気候変動対策について、**農家への啓発活動**も進めています。ウシの「ゲップ」は温室効果ガスの原因として最近話題になっており、ウシの排出するメタンガスの温室効果は二酸化炭素の28倍だという事実があります。また、家畜の排泄物から発生する温室効果ガスも問題であることが知られています。リノス博士はそういった事実に対する**畜産農家の理解を促進**し、少しでも温室効果ガスの排出抑制に繋げようと取り組んでいます。ザンビアでは昨年、深刻な干ばつが発生し農家は甚大な被害を受けたため、今年は以前よりも農家の反応が良かったとのこと。

## 狂犬病対策への取り組み

現在、ザンビアでは**狂犬病が蔓延**しているため、そのコントロール・プログラムが「ワンヘルス」体制<sup>2</sup>で実施されています。熱研と国際獣疫事務局<sup>3</sup>はザンビアで狂犬病のサーベイランス<sup>4</sup>を実施する予定です。また、現在 JICA は狂犬病コントロールを目指し、ザンビア大学獣医学部でのプロジェクトを通してザンビアの公衆衛生セクターを支援しています。獣医公衆衛生部に属するリノス博士はこれらの取り組みでのザンビア側関係者の中心的役割を担っています。リノス博士は日本での研修以来、熱研の先生方とも親交を温めており、その繋がりから2025年2月28日に長崎市で開催された「長崎県狂犬病予防対策講習会」に招待され、再び日本の地を踏みました。**日本で培った人間関係をもとに、これからも人獣共通感染症対策の分野での活躍が期待**されています。国際獣疫事務局の下ページにリノス博士が進める狂犬病コントロールに係る記事が紹介されています(英文のみ)<sup>5</sup>。

---

<sup>2</sup> ヒト、動物、環境の健康(健全性)に関する分野横断的な課題に対して、関係者が協力し、その解決に向けて取り組むこと。

<sup>3</sup> 世界の動物衛生の向上を目的とする政府間機関。動物衛生や人獣共通感染症に関する国際基準の策定等を行っている。

<sup>4</sup> 感染症などの動向を把握するため、継続的に監視・調査すること、またはその結果を指す。

<sup>5</sup> <https://rr-africa.woah.org/en/news/zambias-rabies-control-strategy-endorsed-a-model-for-one-health-success/>